

カーボンニュートラルに 対する課題・要望

令和3年4月28日

(一社) 日本自動車機械器具工業会

（一般社団法人）日本自動車機械器具工業会の概要

（設立目的） 当工業会は、我が国の自動車用機械器具の健全な発展を図り、もって関連産業の発展及び国民生活に寄与することを目的としております。

※自動車機械器具

自動車（自走能力を有する建設土木用機械、荷役運搬用機械及び農業用機械を含む。）の組立作業、形状・機能の維持または変更作業、解体・廃棄作業に必要な機械類、工具類を言います。

（設立年月） 昭和34年9月
自動車機械工具工業会（任意団体）
昭和54年8月
社団法人 日本自動車機械器具工業会
平成24年4月
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会

(会員数) 正会員（製造メーカー） 45社（中小企業比率：86.7%）
賛助会員（流通業者等） 9社
合計（令和3年3月末現在） 54社（業界占有率：54%）

(生産額) 394億円（令和元年度実績）（業界占有率：62.9%）

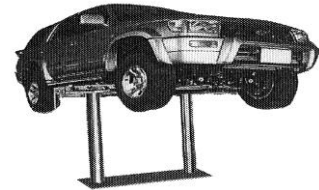
(輸出額) 74億円（令和元年度実績）

(取扱製品) 工具類・・・トルクレンチ、インパクトレンチ等
油圧機器類・・・オートリフト、床上設置リフト等
洗浄機器類・・・門型洗車機、温水洗浄機等
試験機器類・・・スピードメーター、ヘッドライトテスター等
携行式ジャッキ類・・・ねじ式ジャッキ等
電気機器類・・・スキャンツール（故障診断装置）等
※ 上記6機種で全体生産額の89.1%を占める。



(工具類) トルクレンチ

インパクトレンチ



オート・リフト



床上設置式リフト

(油圧機器類) オートリフト



(洗浄機器類) 門形洗車機



温水洗浄機



(試験機器類) ブレーキ・速度計複合試験器



ヘッドライトテスタ

●普通型



(携行式ジャッキ類) ねじ式ジャッキ パンタグラフジャッキ



(電気機器類) スキャンツール(故障診断装置)

(当業界の課題)

当工業会の会員は、主に自動車の整備機器を製造している企業であるが、自動車業界は、CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）を中心とした次世代技術が急速に進展するとともに、異業種との連携による技術開発や新たな業態の進出等大きく変化している。

このため、クルマの安心・安全と環境を支えるサービスツールメーカーとして、時代の変化を機敏にとらえ、次世代の整備を意識した新商品開発と安心・安全の質のレベルアップを図る必要がある。

また、SDGs やカーボンニュートラルへの対応、新型コロナウイルスによる新たな生活様式への対応等、社会環境の大きな変化に迅速に対応する必要に迫られている。

(役員)

理事長	(株) 東日製作所	社長	辻	修
副理事長	(株) 空研	会長	上田	俊次
副理事長	三栄工業 (株)	社長	山田	勝己

中小企業における対策の難しさ

中小企業は社員数も限定的で日々の仕事に追われており、
カーボンニュートラルが自分のビジネスにどう関係してくるか、何をすればいいのか、考えている余裕がない会社が殆どである。
対応を考える人材も、実行に移すお金も人材も余裕がない。

中小企業が関わりやすい形で
現状の認識と対策の立案、実行に向けた支援が必要

具体的な要望事例

1. 中小企業（協力企業を含む）においては、単独でCO₂排出量の計測は困難であるため、国や都道府県による実態把握のための指導や支援。
2. 一企業、一個人レベルのCO₂排出量の簡易な計測方法の明示。
3. 経営資源が脆弱な中小企業に合わせたCO₂削減方法の明示及び周知徹底
4. CO₂排出削減を図るための設備投資や再生可能エネルギー、自然エネルギー導入に必要な補助金等の支援、税制措置等。